

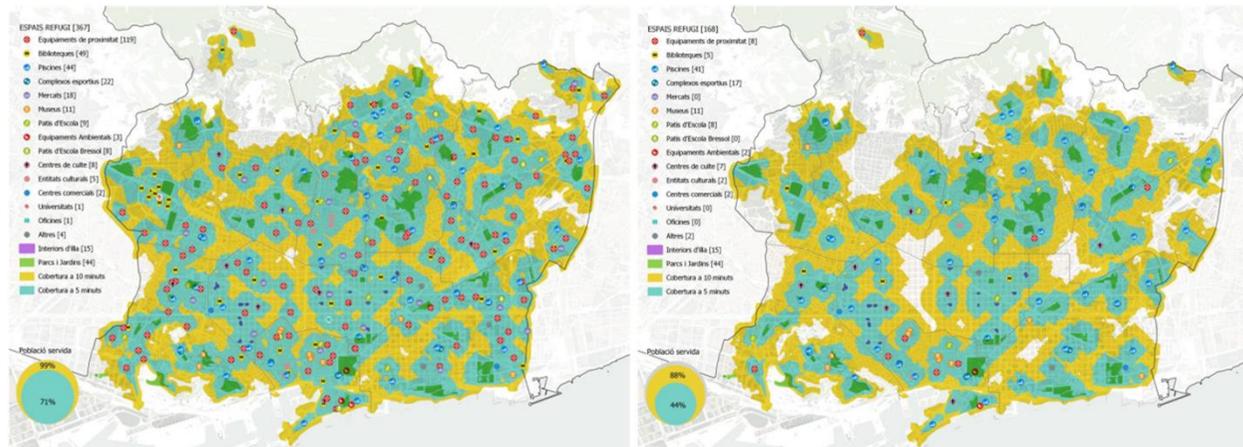
# 10-5. クーリングシェルターと涼み処

## 事例1 バルセロナ市（スペイン）

- バルセロナ市は暑さと寒さをしのぐため、2種類のクライメートシェルターを設置。
  - ①弱者の保護に主眼を置いた、社会福祉サービスが運営する**24時間開放の施設**
  - ②**施設の営業時間中開放し、短時間滞在を想定した施設**（公共・商業施設、学校等）
- シェルターの主な登録要件は、快適な温度であり、飲み水、座る場所があること、バリアフリーであること。屋内施設は、室温が夏は26℃以下、冬は21℃以上であること。屋外施設は、十分な日陰と座って休めるスペース、水飲み場があること。
- 全てのシェルターで飲料水を持ち帰り可能な容器ごと提供し、地域情報の載った地図を配布。アプリ等の電子媒体での公開の他に、高齢者に考慮した紙媒体でも配布

### 2030年までの導入目標

- 2030年までに全人口が徒歩5分圏内でシェルターにアクセスできる環境を整えることを目標に設定。現在の徒歩5分圏内のカバー率は71%、徒歩10分圏内は99%。バカンスシーズンの日曜日は45%と89%に低下。今後は、バカンスシーズンのカバー率低下への対策や、人口の少ない地域におけるマイクロシェルター（飲食店などで1,2席用意する形）の導入などを検討。



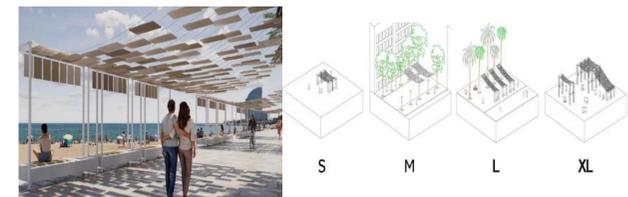
バルセロナ市ウェブサイト及びヒアリング調査より

### クライメートシェルターに関する市民調査

- 2021年から市実施の年次市民アンケート調査にクライメートシェルターに関わる設問を導入。
- クライメートシェルターの認知度は20%未満であったが、2024年には約40%まで上昇。クライメートシェルターの利用率は市の人口に対し、2021年に7.7%であり、2024年に13.2%に上昇した。

### 街中に日陰を作る取組（シャドウプラン）

- 日照時間が長いあるいは日照りが厳しく、かつ子どもや高齢者が多い地域の公共スペースで日陰を作る取組を実施。
- 基本的には樹木といった自然の利用を優先し、他の場合は組み立て・分解が簡単な撤去可能な構造物の設置を行う。



【図】日陰設置イメージ（提供：バルセロナ市）